

第2章 史跡周辺の概要

1 自然環境

(1)位置と地形

仙台市は市域の北端から西端にかけて、東北地方の脊梁と言われる奥羽山脈が走り、市域の最高地点を一角にもつ船形山(標高1,500m)をはじめ、標高1,000m級の山並みが連なっている。その東には、広い丘陵地が続き、その間を七北田川、広瀬川、名取川が東流して太平洋に注ぎ、これら3河川の堆積によって形成された平野が丘陵地の東側に広がっている(図2-1)。中流域には河岸台地や段丘が発達し、これらと丘陵地の一部は主として市街地、西部の山地と丘陵地は山林、東部の低地は主に農耕地となっている。仙台郡山官衙遺跡群がある太白区は、市の南部に位置し、東は太平洋、西は山形県境と接し、名取川に沿って東西に帯状に延びている。

仙台郡山官衙遺跡群は仙台市南部の太白区郡山に所在し、市街中心部から東南約5kmに位置する。JR東北本線長町駅の東側一帯に広がる郡山遺跡の中核部が平成18(2006)年に史跡指定されたものである。仙台平野を東流する名取川とその支流である広瀬川とに挟まれた、郡山低地の中央やや東寄りの標高8~11mの自然堤防と後背湿地上に立地している。遺跡内には数条の旧河道が認められるが、中でも遺跡南側に入りこんだ旧河道は顕著であり、現状でも1~1.5mの比高差が認められる。また、発掘調査によって遺跡北西部にも古代に遡る河川跡が発見されている。

郡山の地に古代陸奥国の役所・寺院跡である本史跡が立地する理由としては、①名取川と広瀬川が本史跡から南東へ1.5kmで合流し、この合流点から名取川の河口までが6kmと近く、太平洋の海上交通や河川交通上、利便性の高い位置であること、②東北地方の北と南をつなぐ仙台平野のほぼ中央に位置するとともに、仙台湾の海岸線から奥羽山系までの最短距離ライン上にあり、名取川を遡って峠を越え、山形県の内陸部(最上・置賜地方)へも移動しやすい位置にあること、③名取川・広瀬川は渇水期に郡山付近において徒歩での渡河が可能であったとみられ、周辺に古代の官道である「東山道」も通っていたと推測されるなど、古代の陸上交通においても重要な位置と考えられること、などが挙げられる。



図2-1 仙台平野の広がり(仙台市史特別編1自然より引用、一部加筆)



図2-2 郡山遺跡周辺から太平洋を望む(昭和62年撮影)(西から撮影)



仙台郡山官衙遺跡群の位置

(地理院タイルに遺跡位置を追記)

図2-3 仙台郡山官衙遺跡群の位置

(2)気候

仙台郡山官衙遺跡群の位置する仙台市南部の気候は、太平洋に面した海洋性気候のため、寒暖の差が少なく、冬は奥羽山脈からの乾いた北西の風のために、積雪も少ない特徴がある。過去10年間(2010～2019年)の記録では、年平均気温が13.2℃(最高37.3℃、最低-7.4℃)、平均年間合計降水量は1,281.1mmとなっている。

(3)植生

郡山遺跡周辺は宅地化が進んでおり、史跡地内に所在する居久根(いぐね=屋敷林)が周辺一帯における貴重な植生となっている。当該の居久根(いぐね)は北～東に「(かぎ)状に植えられたケヤキからなり、その他にツバキ等も混生している。

図2-4 史跡地内の居久根(いぐね) (南から撮影)



(4)景観

昭和50年代中頃まで長町駅東側は農地の多い地区だったこともあり、郡山遺跡から8.25km西方にある太白山(標高320.61m)を見ることができた(位置は16ページの地図参照)。官衙が造営された当時も太白山を見ることができたと想定され、官衙において行われた儀式等との関連も推測されている。しかし、近年は高層建築物の増加に伴い、遺跡内から太白山が見える地点はごく僅かとなっている。



図2-5 遺跡内から太白山を望む
(平成初め頃撮影)



図2-6 遺跡内から太白山を望む
(令和4年撮影)

2 社会的環境

仙台市は、宮城県の中央部に位置し、明治22年の市制施行以来、7回にわたって周辺市町村を編入し、現在の総面積は約786 km²で、政令指定都市の中では浜松市、静岡市、札幌市、広島市、京都市に次ぐ第6位の広さになっている。また推計人口は、1,097,620人(令和6年1月1日現在)で、東北の中核都市として発展を続けている。

(1)計画対象範囲における文化財保護法以外の法令による規制

(図は「仙台市都市計画情報インターネット提供サービス」(令和6年1月時点)をもとに、計画の対象範囲等を追加)

①都市計画法

史跡地および史跡を目指す範囲は、「都市計画地域」の市街化区域(「第二種住居地域・第3種高度地区」)に指定されている。郡山遺跡の一部は、「都市計画地域」の市街化区域(「工業地域・高度指定なし」,「商業地域・高度指定なし」,「準工業地域・第4種高度地区」,「近隣商業地域・第4種高度地区」)に指定されている。

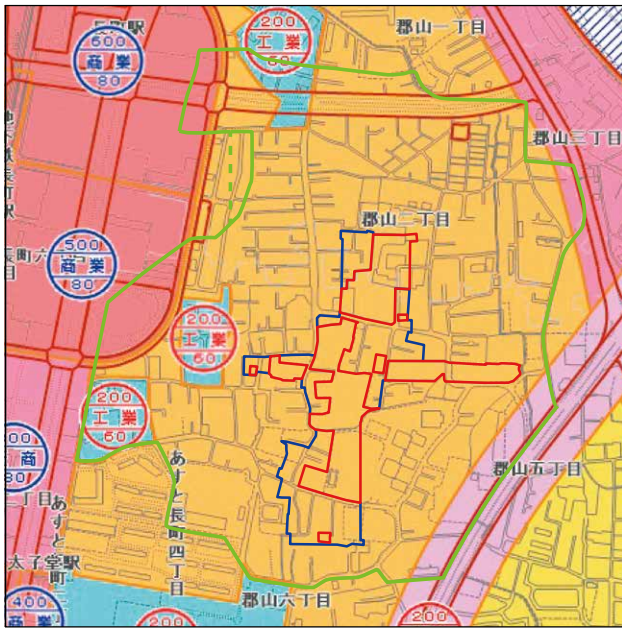


図2-7 用途地域 区域図

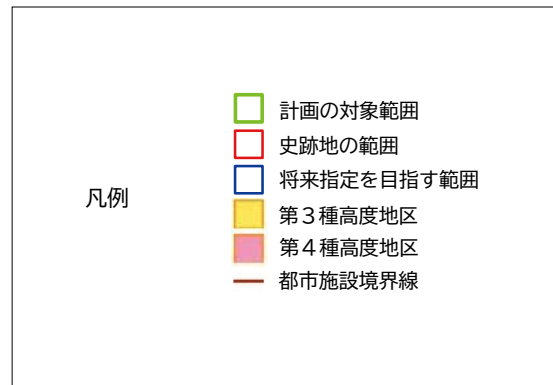
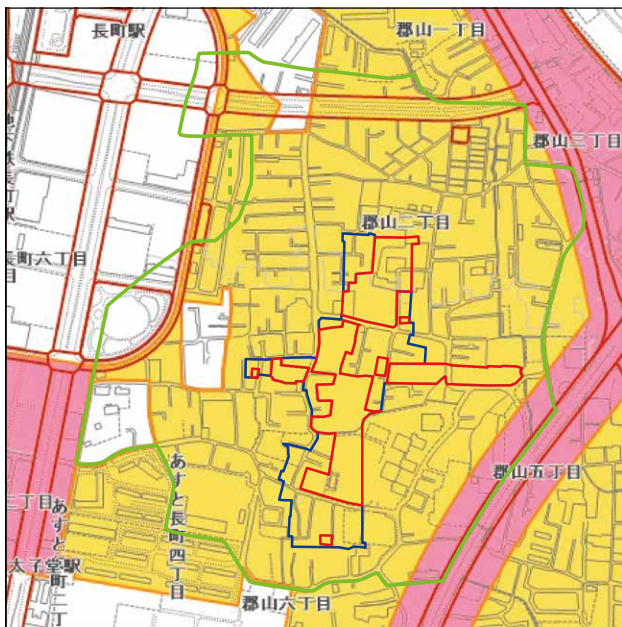


図2-8 高度地区 区域図

また、郡山遺跡の一部は、「防火地域」および「準防火地域」に指定されている。

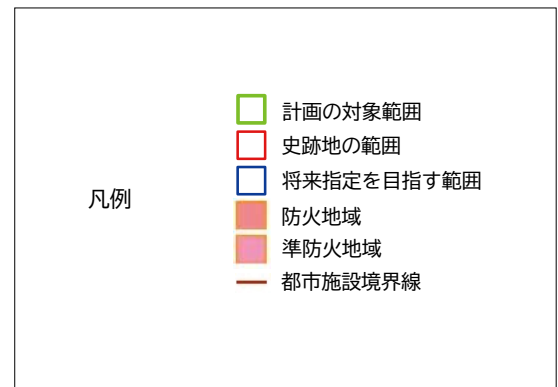
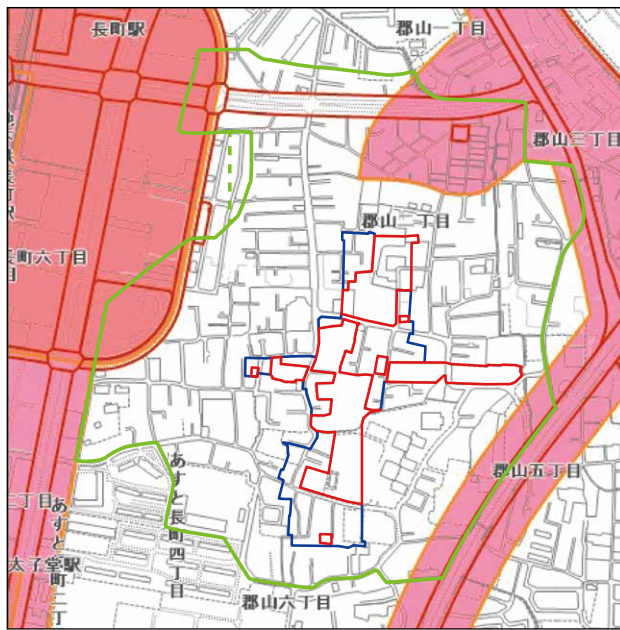


図2-9 防火指定 区域図

なお、郡山遺跡の一部は、都市計画法の規定による地区計画が定められた区域（「あすと長町東部」・「あすと長町中央」）である。

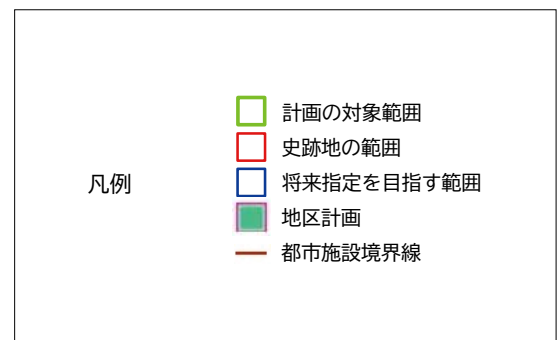
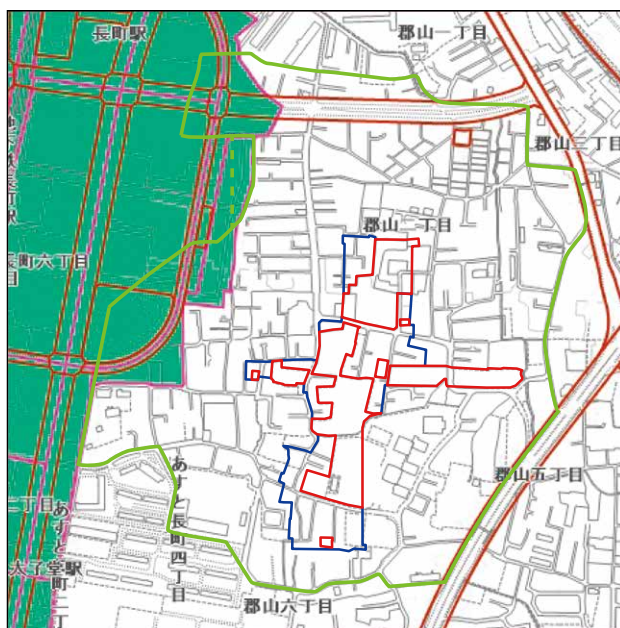


図2-10 地区計画 区域図

②道路法・道路交通法

市道について適用されている。

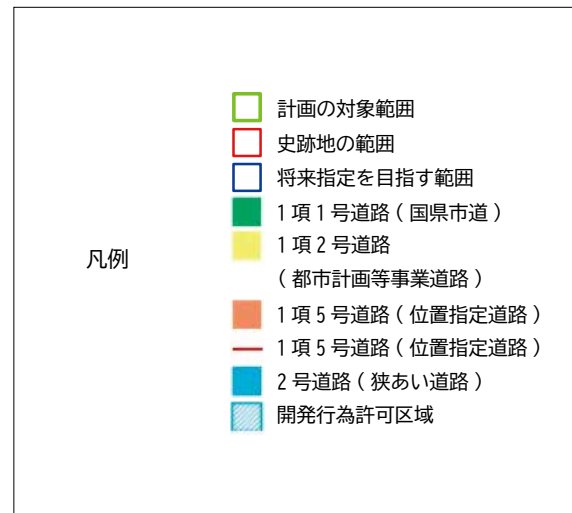
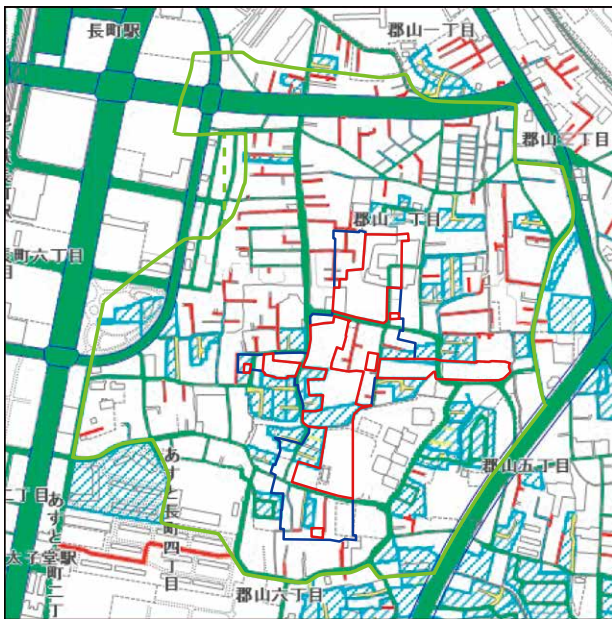


図2-11 指定道路図

③仙台市屋外広告物条例

史跡地は「禁止地域」、史跡を目指す範囲は「第二種許可地域」、郡山遺跡範囲は「第二種許可地域」、「第三種許可地域」および「禁止地域」に指定されている。

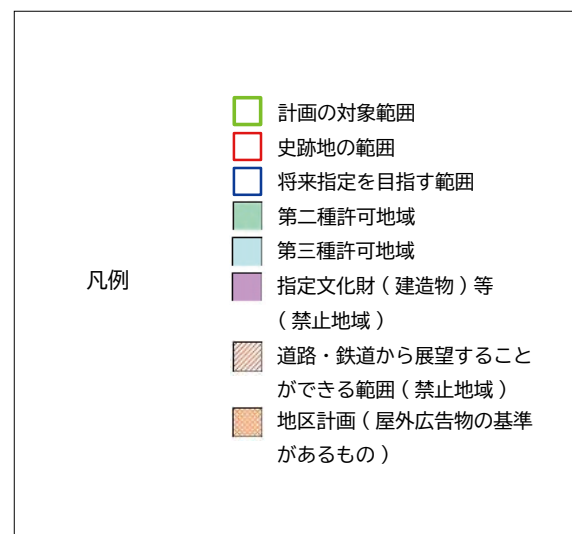
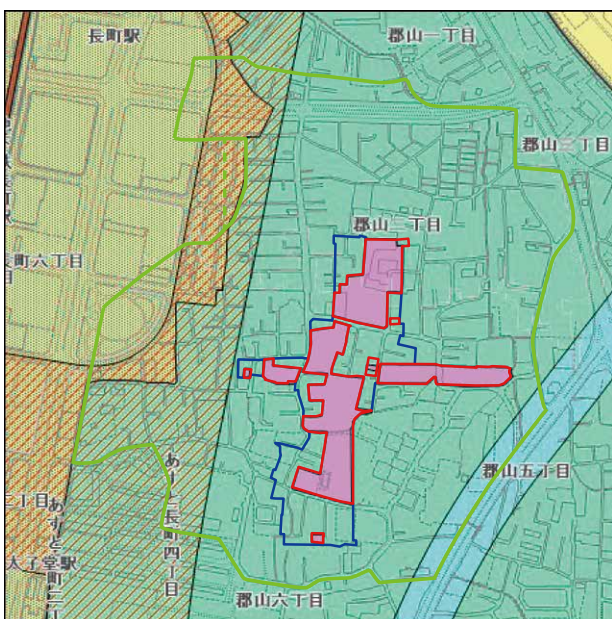


図2-12 仙台市屋外広告物条例に基づく区域図

④ 広瀬川の清流を守る条例

史跡地および郡山遺跡範囲の一部が「水質保全区域」に指定されている。

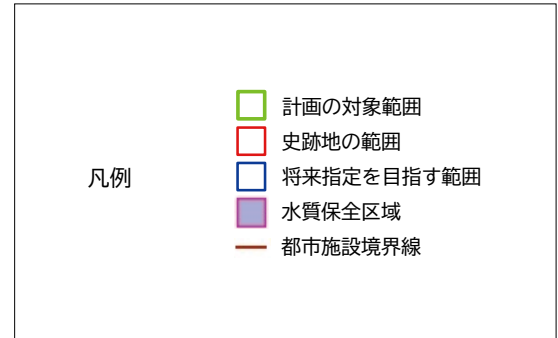
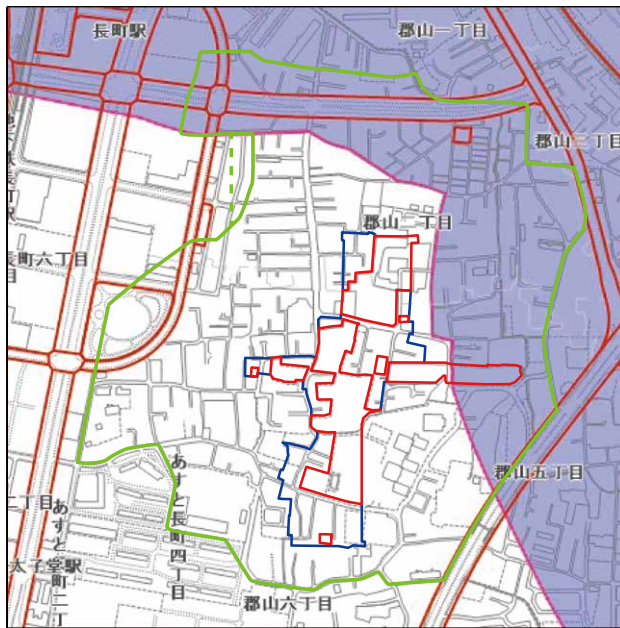


図2-13 広瀬川の清流を守る条例に基づく区域図

⑤ 建築物における駐車施設の附置及び管理に関する条例(駐車場附置義務条例)

史跡地および史跡を目指す範囲の一部が「近隣商業地域等(周辺地区)」, 郡山遺跡範囲の一部が「近隣商業地域等(周辺地区)」および「他の商業地域」に指定されている。

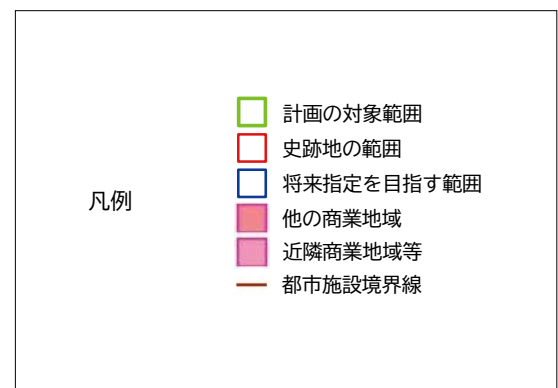
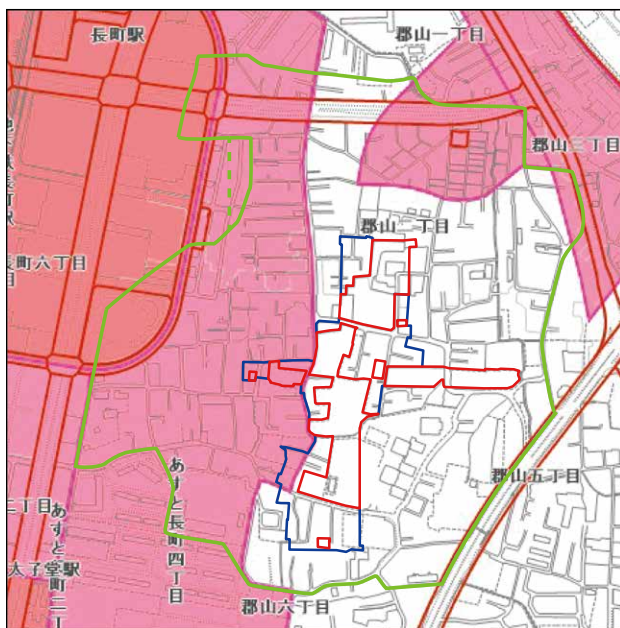


図2-14 駐車場附置義務条例に基づく区域図

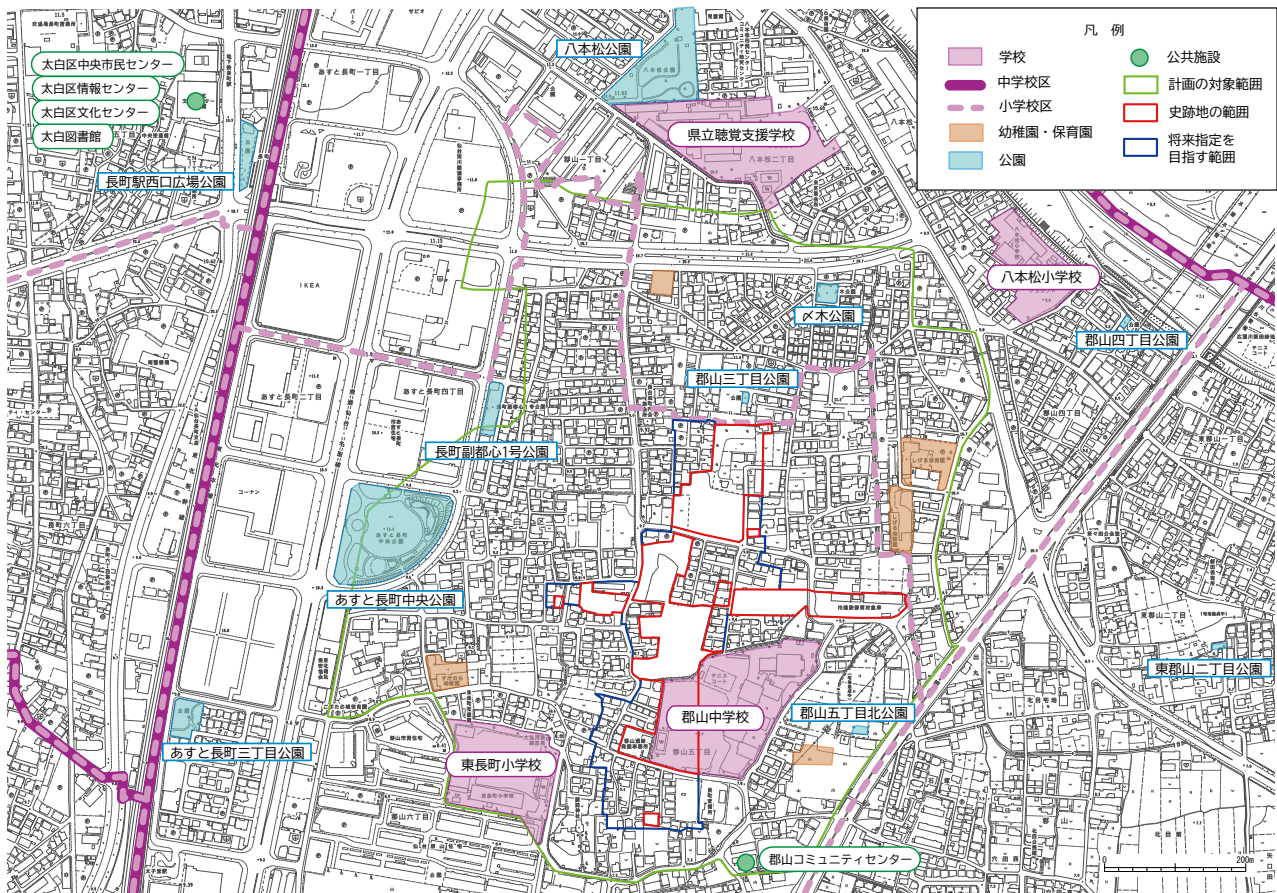
(2) 周辺施設

仙台郡山官衙遺跡群周辺には、東長町小学校、八本松小学校、郡山中学校、県立聴覚支援学校が所在し、計画対象範囲内には幼稚園・保育園が5園所在するなど、教育施設等が多く所在する。

史跡地および将来指定を目指す範囲は、郡山中学校区内の東長町小学校区に含まれており、計画対象範囲は郡山中学校区内の東長町小学校区および八本松小学校区に含まれている。

公共施設としては、計画対象範囲内には郡山コミュニティ・センターが所在するほか、長町駅西側に太白区中央市民センター、太白区情報センター、太白区文化センター、太白図書館が所在する。

公園は、計画対象範囲内およびその近辺に、メ木公園、郡山三丁目公園、郡山五丁目北公園、あすと長町中央公園、長町副都心1号公園などが所在する。



(平成28年修正・都市計画基本図を加工)

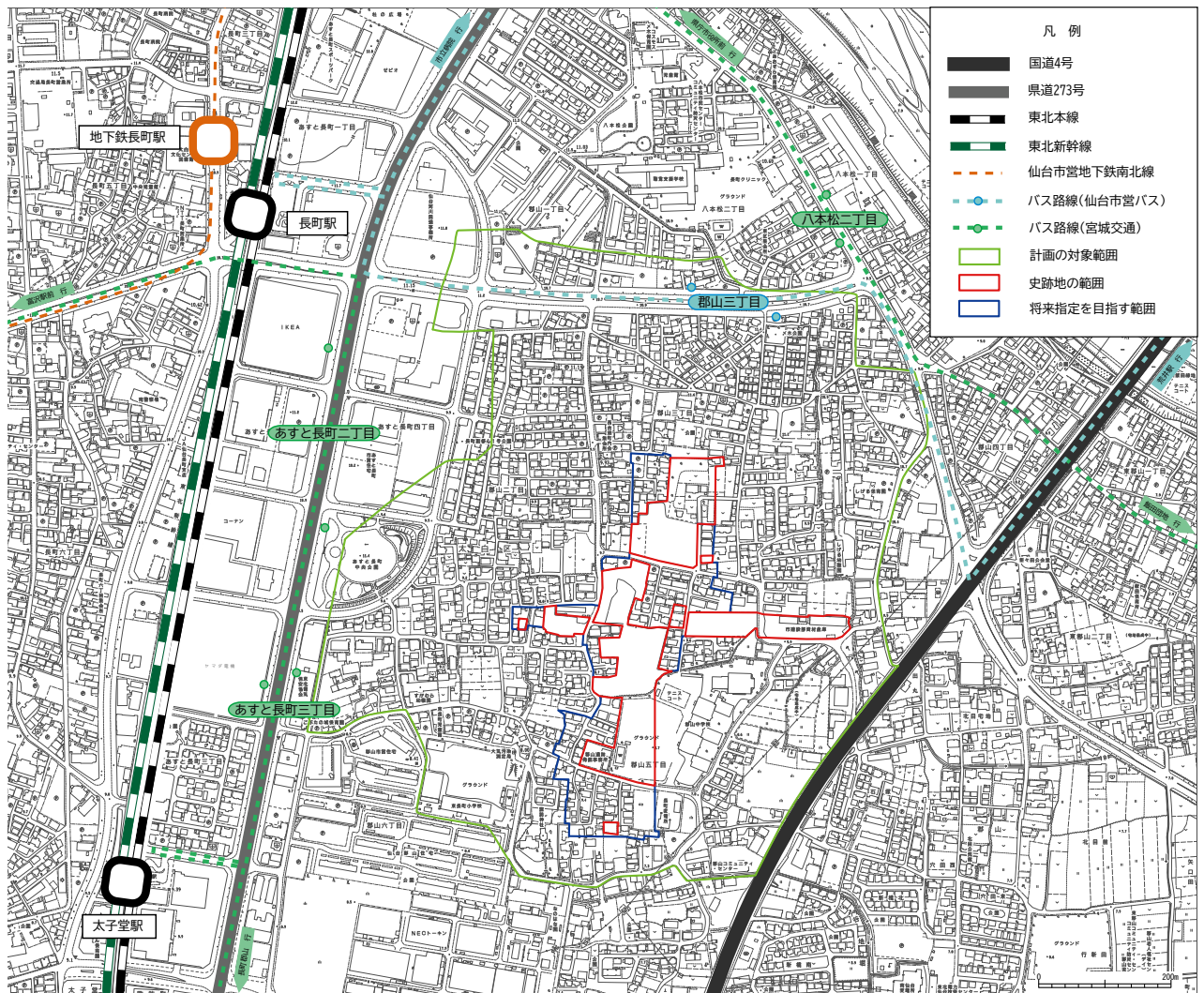
図2-15 周辺施設図

(3)交通

仙台郡山官衙遺跡群周辺の主要な幹線道路は、東側に国道4号、西側に県道273号が通る。

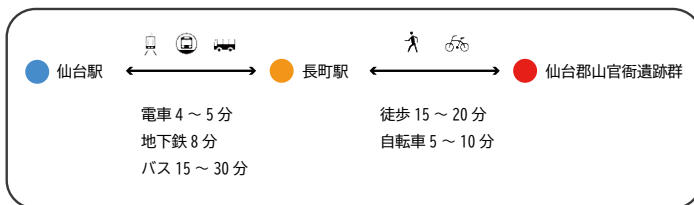
また、西側には東北新幹線・JR東北本線・仙台市地下鉄南北線の長町駅や、JR太子堂駅が存在する。周辺バス停としては、仙台市営バス「郡山三丁目」や、宮城交通「八本松二丁目」・「あすと長町二丁目」・「あすと長町三丁目」などがある。

海外を含めた仙台市外から史跡仙台郡山官衙遺跡群を訪れる場合は、飛行機・鉄道等を用いて仙台駅を経由し、仙台駅からJR・地下鉄・バス等で長町駅に向かい、長町駅から徒歩・レンタルサイクル等で訪れる方法と、自動車にて国道4号または東北自動車道(仙台南I.C.・仙台宮城I.C.)から訪れる方法がある。

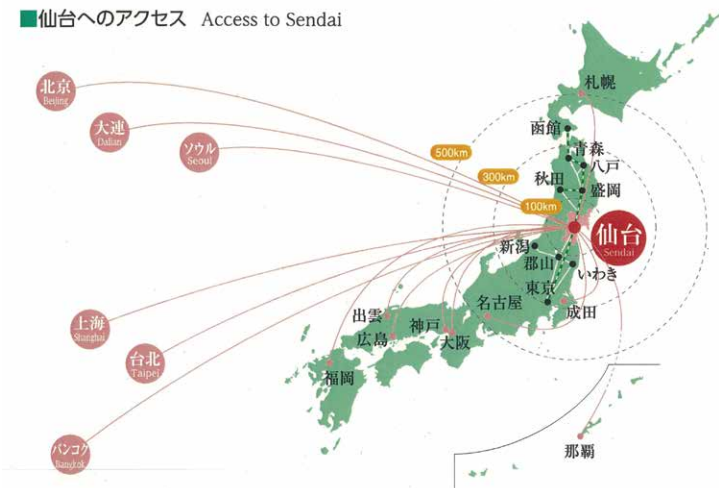


(平成28年修正・都市計画基本図を加工)

図2-16 交通現況図



■ 仙台へのアクセス Access to Sendai



◎ 新幹線 Shinkansen (Bullet Train)

東京 Tokyo	1時間30分	仙台 Sendai
秋田 Akita	2時間7分	仙台 Sendai
新函館北斗 Shin-Hakodate-Hokuto	2時間27分	仙台 Sendai

◎ 航空国内線 Domestic Flights

札幌(新千歳) Sapporo(New Chitose)	1時間5分	仙台空港 Sendai Airport
成田 Narita	1時間	仙台空港 Sendai Airport
名古屋(中部) Nagoya(Chubu)	1時間5分	仙台空港 Sendai Airport
大阪(関西) Osaka(Kansai)	1時間20分	仙台空港 Sendai Airport
大阪(伊丹) Osaka(Itami)	1時間10分	仙台空港 Sendai Airport
神戸 Kobe	1時間20分	仙台空港 Sendai Airport
出雲 Izumo	1時間25分	仙台空港 Sendai Airport
広島 Hiroshima	1時間20分	仙台空港 Sendai Airport
福岡 Fukuoka	1時間45分	仙台空港 Sendai Airport
沖縄(那覇) Okinawa(Naha)	2時間45分	仙台空港 Sendai Airport

◎ 航空国際線 International Flights

ソウル Seoul	2時間5分	仙台空港 Sendai Airport
上海 Shanghai	2時間45分	仙台空港 Sendai Airport
北京 Beijing	5時間20分	仙台空港 Sendai Airport
大連 Dalian	2時間45分	仙台空港 Sendai Airport
台北 Taipei	3時間30分	仙台空港 Sendai Airport
バンコク Bangkok	5時間41分	仙台空港 Sendai Airport

2022年5月現在
As of May, 2022

データ仙台 2022 より引用 (一部加筆)

図2-17 交通関係図

(4)産業・観光

市内の産業は、商業・サービス業を中心とした第3次産業の比率が高く、その多くが市外にある本社等の支店・支社であることから「支店経済」とも呼ばれ(データ仙台2022)、東北におけるビジネスの拠点となっている。

市内の観光客入込数は1,921.6万人、宿泊者数は476.7万人、そのうち外国人宿泊者数は3.4万人(令和4年)。居住地別の宿泊者数は関東地方や東北地方、県内居住者が多く、全体の8割を占めている。(令和4年仙台市観光統計基礎データ)

(5)防災

大雨災害については、計画対象範囲の大半が洪水浸水想定区域(南側の一部は早期に立退き避難が必要な区域)(図2-20)であり、史跡地周辺では大雨時に冠水する場合もある。

地震災害については、史跡地の一部が周辺町内会の「いっとき避難場所」となっており、必要に応じて、指定避難所に避難する前の集合場所として使用されている。

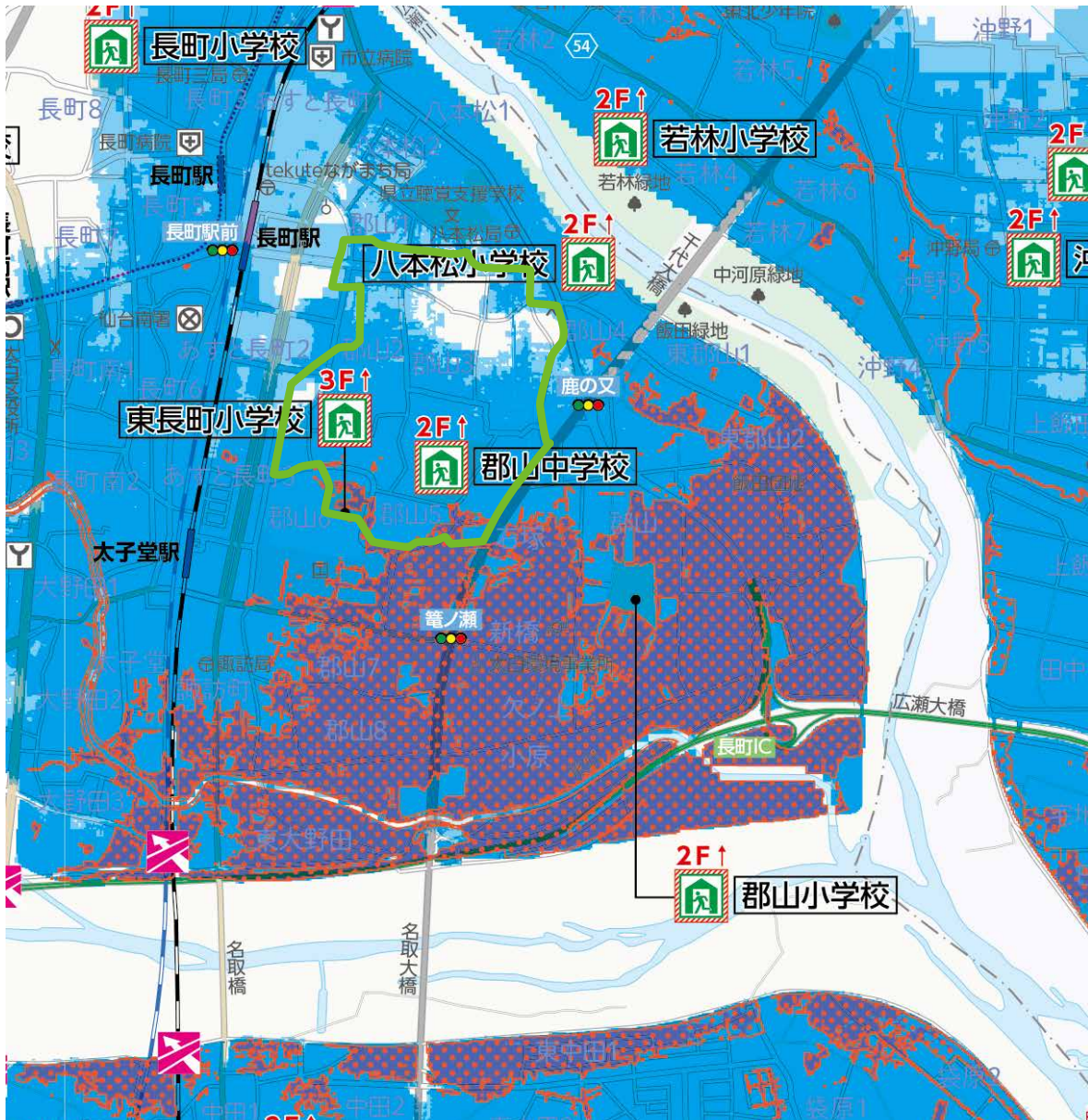
東日本大震災においては、郡山遺跡の所在する仙台市太白区において震度5強を観測しており、史跡地内に所在した発掘調査事務所および収蔵庫・展示室として使用していたプレハブが被災(図2-18・図2-19)したことにより、以後遺物の展示を中断している。



図2-18 東日本大震災による史跡地内収蔵庫の被災状況



図2-19 東日本大震災による史跡地内展示室の被災状況



仙台防災ハザードマップ（太白区）を一部抜粋し、加工

 計画の対象範囲

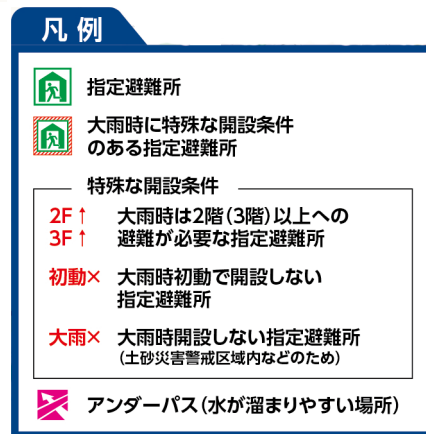
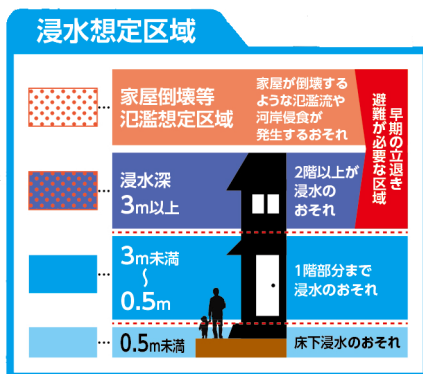


図2-20 防災関係図

3 歴史的環境

(1) 史跡地周辺の歴史的変遷

【旧石器時代】

郡山低地の後背湿地上にある富沢遺跡(図2-25②)からは、火を焚いた跡とその周りから100点以上の石器が出土している。当時の環境を復元できる樹木や葉、昆虫、動物の糞なども発見され、2万年前の仙台の様子を伝えている。

【縄文時代】

縄文時代の後期になると沖積地に遺跡が集中する様相がみられ、郡山遺跡でも遺構は明確ではないが、官衙の下層から縄文時代後期後半の土器や、縄文時代晩期の土器片(図2-21)が出土しており、何らかの活動が行われたと考えられる。



図2-21 縄文時代後期の遺構・遺物

【弥生時代】

郡山遺跡では弥生時代前期初頭の土器片や中期中頃以前の水田跡(図2-22)が見つかっており、隣接する西台畑遺跡(図2-25⑳)からも中期中頃の合わせ口土器棺とみられる土器や、人骨を伴う土壙墓どこうぼが見ついている。また、富沢遺跡(図2-25②)では弥生時代中～後期の大規模な水田跡が見つかるなど、郡山低地は生産域や墓域としての利用が窺える。



図2-22 弥生時代の水田跡

【古墳時代】

古墳時代中期後半から後期にかけて小規模な円墳や前方後円墳からなる大野田古墳群おおのだこふんぐん(図2-25⑯)が名取川の北岸につくられている。郡山遺跡でも古墳周溝とみられる溝跡(図2-23)が見ついているが、詳細は不明である。郡山遺跡から北西へ約1.5kmの向山地区では丘陵斜面に横穴墓群よこあなぼぐん(図2-25㉑)がつくられ、奈良時代まで継続する横穴墓もある。



図2-23 古墳周溝とみられる溝跡

【飛鳥・奈良時代】

郡山遺跡や隣接する長町駅東・西台畑遺跡(図2-25⑲・⑳)では、I期官衙が造営される前から竪穴住居が造られており、関東地方の特徴を持つ土師器が出土している。I期官衙の造営に先立ち、関東地方からの移住があったものと考えられる。7世紀中ごろ～末葉にはI期官衙、7世紀末葉～8世紀半ば頃にはII期官衙が機能していたが、多賀城の創建や国分寺・国分尼寺の建立の中で官衙は順次機能を終えたと考えられる。なお、8世紀には出来上がっていたとみられる東山道(未発見)は、名取川・広瀬川の徒歩での渡河可能地点から考えて郡山遺跡周辺を通過していたと推測される。

【平安時代】

仙台平野南部の平安時代の遺跡は、自然堤防上において拡大し、検出される竪穴住居跡の軒数も増加するが、郡山遺跡では10世紀前半代に降下した灰白色火山灰の時期を前後する水田跡が見つかっており、生産域として利用されていたと考えられる。また、郡山遺跡では古代末期のものとして推測される溝跡(図2-24)も見つかっており、道路や屋敷の区画となる可能性が考えられている。



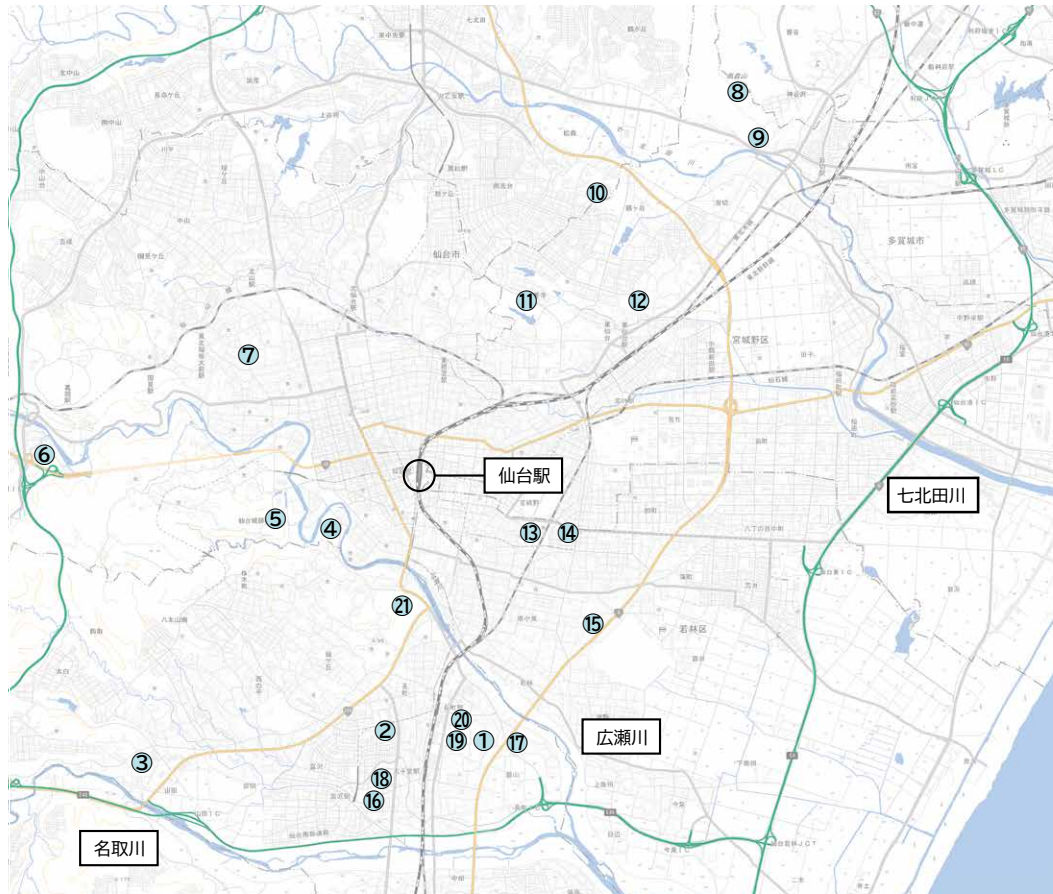
図2-24 古代末期の溝跡

【中世】

仙台平野南部の各所から堀により区画された屋敷跡が発見されており、富沢遺跡(図2-25②)などでは13世紀以降、水田が屋敷跡近くで作られていたことがわかっている。郡山遺跡では古代以降とみられる水田跡が見つかったが、屋敷跡等は見つかっていない。なお、鎌倉時代の奥州合戦時には、郡山を^{おくだいどう}通っていたと推定される奥大道(未発見)を源頼朝軍が通過したと考えられる。

【近世以降】

関ヶ原の合戦が起こると、伊達政宗は慶長5(1600)年7月に名取郡北目城(図2-25⑰)に入り、ここを拠点として上杉方と対峙した。安永元(1772)年に完成した「^{ほうないふどき}封内風土記」によれば、郡山村は戸口67、男女375人と神社や古壘(北目城)などがあると記されている。江戸時代以降明治初年まで奥州街道沿いの長町と隣接しながら、郡山は農村的な姿を留めていたようである。明治20(1887)年に塩釜まで東北本線が開通すると、郡山の地は長町方面と線路により分断されたこともあり、長く農村の風景を留めていたが、昭和40年代に国道4号が開通すると宅地化が進んだ。



(地理院タイルに遺跡位置を追記)

①仙台郡山官衙遺跡群	②富沢遺跡(富沢遺跡保存館)	③山田上ノ台遺跡(縄文の森広場)
④経ヶ峯伊達家墓所	⑤仙台城跡	⑥郷六城跡
⑦林子平墓	⑧岩切城跡	⑨東光寺の石窟群域・西平場
⑩松森焔硝蔵跡	⑪与兵衛沼窯跡	⑫善応寺横穴古墳群
⑬陸奥国分寺跡	⑭陸奥国分尼寺跡	⑮遠見塚古墳
⑯大野田古墳群	⑰北目城跡	⑱大野田官衙遺跡
⑲長町駅東遺跡	⑳西台畑遺跡	㉑向山横穴墓群

図2-25 仙台市内の国指定史跡、主な市指定史跡など

(2)仙台市の文化財

仙台市内には、国指定文化財をはじめ多くの指定文化財がある。国指定史跡としては、大正11(1922)年に指定された奈良時代建立の陸奥国分寺跡をはじめ、古墳時代の遠見塚古墳、奈良時代の陸奥国分尼寺跡、中世の岩切城跡、近世の林子平墓、仙台城跡などがあり、仙台郡山官衙遺跡群は市内7番目の史跡として指定されたものである。

これらの史跡は、約3万年前の旧石器時代からはじまる仙台の歴史を物語る上で、各々の時代を代表する遺跡であり、なかでも仙台郡山官衙遺跡群は今から約1300年前の飛鳥時代の仙台平野を語る上で欠くことのできない遺跡として位置付けられる。以下に国指定文化財等を示す。

表2-1 仙台市内の主な文化財

【国指定文化財】			
種類	名称	所在地	指定年月日
史跡	陸奥国分寺跡(図2-25⑬)	若林区木ノ下二丁目,三丁目	大正11年10月12日
	陸奥国分尼寺跡(図2-25⑭)	若林区白萩町	昭和23年12月18日
	林子平墓(図2-25⑦)	青葉区子平町	昭和17年7月21日
	遠見塚古墳(図2-25⑮)	若林区遠見塚一丁目ほか	昭和43年11月8日
	岩切城跡(図2-25⑧)	宮城野区岩切字入山ほか	昭和57年8月23日
	仙台城跡(図2-25⑤)	青葉区荒巻字青葉無番地ほか	平成15年8月27日
	仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡(図2-25①)	太白区郡山二丁目,三丁目,五丁目,六丁目	平成18年7月28日
名勝	秋保大滝	太白区秋保町馬場字大滝	昭和17年3月7日
	磐司	太白区秋保町馬場字岳山	昭和20年2月22日
天然記念物	ニホンカモシカ	地域を定めず指定	昭和30年2月15日
	苦竹のイチョウ	宮城野区銀杏町	大正15年10月20日
	朝鮮ウメ	若林区古城二丁目	昭和17年9月19日
	青葉山	青葉区荒巻字青葉	昭和47年7月11日
	姉滝	太白区秋保町馬場字岳山	昭和9年8月9日
有形文化財	東昌寺のマルミガヤ	青葉区青葉町	平成7年3月20日
	国宝 大崎八幡宮 本殿 石の間 拝殿 附棟札1枚	青葉区八幡町四丁目	明治36年4月15日
	大崎八幡宮長床	青葉区八幡町四丁目	昭和41年6月11日
	陸奥国分寺薬師堂 附厨子1基・棟札1枚	若林区木ノ下三丁目	明治36年4月15日
	東照宮本殿・唐門・透塀・鳥居・隨身門 附 厨子1基・棟札1枚・石燈籠34基	青葉区東照宮一丁目	昭和28年3月31日
	木造釈迦如来立像	青葉区八幡四丁目	明治36年4月15日
	太刀	青葉区川内亀岡町	大正3年4月17日
	小紋染胴服	青葉区川内(仙台市博物館)	昭和53年6月15日
	黒漆五枚胴具足 兜・小具足付(伊達政宗所用) 附 黒羅紗地裾緋羅紗山形文陣羽織 1領 旗 1旒	青葉区川内(仙台市博物館)	昭和54年6月6日
	銀伊予札白糸威胴丸具足 兜・小具足付	青葉区川内(仙台市博物館)	昭和54年6月6日
	帯(三沢初子所用) 附 総鹿子裂2枚入日記(正徳2年4月) 1通	青葉区川内(仙台市博物館)	平成3年6月21日
	国宝 類聚国史 卷第二十五	青葉区川内	昭和27年11月22日
	国宝 史記(孝文本紀 第十)	青葉区川内	昭和27年11月22日
	塵芥集	青葉区川内(仙台市博物館)	平成15年5月29日
	埴輪甲 埴輪家残闕 埴輪円筒	青葉区片平二丁目	昭和34年6月27日
	陸前国沼津貝塚出土品	青葉区片平二丁目	昭和38年7月1日
	国宝 慶長遣欧使節関係資料	青葉区川内(仙台市博物館)	平成13年6月22日
坤輿萬図全図(版本) 附 坤輿萬図全図(着色)	泉区紫山一丁目	平成2年6月29日	
無形文化財	精好仙台平	太白区根岸	平成14年6月27日
無形民俗文化財	秋保の田植踊	太白区秋保町湯元,長袋,馬場	昭和51年5月4日
【主な市指定史跡】			
	名称	所在地	指定年月日
	善応寺横穴古墳群(図2-25⑫)	宮城野区燕沢二丁目	昭和43年2月15日
	経ヶ峯伊達家墓所(図2-25④)	青葉区霊屋下	昭和59年7月21日
	郷六城跡(図2-25⑥)	青葉区郷六	昭和50年12月11日

【主な市指定史跡】		
名 称	所 在 地	指定年月日
松森焰硝蔵跡(図2-25⑩)	泉区南光台東二丁目	昭和62年5月1日
東光寺の石窟群域・西平場(図2-25⑨)	宮城野区岩切字入山	平成18年1月17日
【その他の主な遺跡】		
名 称	所 在 地	
富沢遺跡(仙台市富沢遺跡保存館)(図2-25②)	太白区長町南四丁目3-1	
山田上ノ台遺跡(仙台市縄文の森広場)(図2-25③)	太白区山田上ノ台10-1	
与兵衛沼窪跡(図2-25⑪)	青葉区小松島新堤, 宮城野区蟹沢	

【仙台郡山官衙遺跡群の関連遺跡】

・大野田官衙遺跡(図2-25⑱)

筑川と旧筑川に挟まれた自然堤防上に立地する。幅3~4mの大溝が、真北方向を基準にして、東西約196m、南北約259mの規模で方形に巡らされていることが確認された。大溝の区画内からは真北方向を向いた掘立柱建物跡(図2-26)が、大型のものも含んで6棟、東西対称の形で検出されたことから、何らかの官衙遺跡であると考えられる。建物は、2時期にわたり利用されており、郡山遺跡Ⅱ期官衙とほぼ同時期と考えられるが明確ではない。この遺跡は、北東約1.5kmに位置する郡山遺跡Ⅱ期官衙と密接な関わりが窺える。



図2-26 掘立柱建物跡
(大野田官衙遺跡)

・長町駅東遺跡・西台畑遺跡(図2-25⑲・⑳)

長町駅東遺跡と西台畑遺跡は、広瀬川によって形成された自然堤防から後背湿地にかけて立地し、郡山遺跡の北西と南西に隣接している。両遺跡を合わせて600軒を超える竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出されており、かなりの密度で重複し合っている(図2-27)。関東地方の特徴を示す土器も出土しており、移民の存在や、統治との関わりが想定される。また集落内には幅4mの大溝跡やこれと平行して配置される材木列や柱列があり、集落内を区画する施設と考えられる。大部分が6世紀末葉から8世紀初頭の時期で、7世紀中葉以降は郡山官衙と同時期に存在していることから、郡山遺跡の官衙の造営や維持・管理・運営に携わった人々の集落跡と考えられる。



図2-27 重複する竪穴住居跡
(長町駅東遺跡)

・向山横穴墓群(図2-25㉑)(大年寺山横穴墓群, 愛宕山横穴墓群, 宗禅寺横穴墓群, 茂ヶ崎横穴墓群, ニツ沢横穴墓群)

向山横穴墓群は、向山地区一帯の丘陵斜面に築かれた横穴墓群の総称である。南北約1.5kmの間に約100基の横穴墓(図2-28)が確認されているが、埋没している横穴墓も数多く想定され、実数は200基を超すと考えられている。仙台平野では、7世紀初頭より横穴墓群の造営が開始され、7世紀中頃から後半にかけてピークを迎える。この頃に、南東約1.5kmに位置する郡山遺跡では、官衙が造営されており、同時期に営まれた向山横穴墓群は、多賀城創建以前の地方支配の拠点を支えた人々を中心とする墓域と考えられている。



図2-28 装飾横穴墓
(愛宕山横穴墓群)